

1426 光技術を利用した大深度ボアホール用地震地殻変動観測装置の開発
担当者 新谷昌人(araya@eri.u-tokyo.ac.jp)

・実施機関（代表機関）名

東京大学 地震研究所

断層すべりや応力場など地殻内で起こっている現象を観測結果に基づき定量的に理解するためには、地下深部や断層近傍における観測手法の確立が不可欠である。

地下深部の高温環境においても動作し、地殻活動にともなう地動変位を正確にとらえることのできる方法として、現計画では光技術を利用した広帯域地震計・傾斜計の開発を行った。この技術を高度化し、ボアホール内での試験観測を通じて、大深度における地殻活動の観測技術を確立し、地震の予測を行うための基礎観測データを提供する。

これまで開発された地震計・傾斜計に歪計・温度計を加え、5年程度の期間で光ベースの大深度ボアホール用地震地殻変動観測装置の開発を行う。